

令和2年（2020年）9月15日

狭山池が、日本で初めて 「国際水圏環境工学会アジア・太平洋地域部会水遺産賞」 を受賞しました

狭山池（大阪狭山市）が、第22回国際水圏環境工学会アジア・太平洋地域部会（IAHR - APD）において「国際水圏環境工学会アジア・太平洋地域部会水遺産賞」を日本で初めて受賞しました。この賞は、国際水圏環境工学会アジア・太平洋地域部会により恒久的かつ国際的に重要と認められる水施設に対して授与するため2016年に創設されたものです。

今般の受賞は、以下について評価されたものです。

- インド・スリランカから中国・韓国経由で仏教とともに伝来した「ため池文化」の帰着点としての文化的価値
- ため池の水を取水する「東樋・中樋・西樋」などの築造当時の施設の技術の先駆性
- 親池（狭山池）から子池、孫池に水を分配する「連珠式」導水システム
（これまでの受賞履歴）

第1回：スリランカ（2016）

伝統的な「ため池」における放流量調整施設（Bisokotuwa）

第2回：日本（2020）

狭山池（大阪狭山市）、辰巳用水（金沢市）・石狩川流域における入植初期の治水・利水施設群（北海道）。

※大阪府から大阪府記者クラブへ同内容で記事提供しています



▲アジア水遺産認定書を掲げる大阪府立狭山池博物館館長・工楽善通氏